

沼津市児童生徒の栄養調査

寿円梅子 女子栄養大学

昨年度報告と同じ対象において、食品の質的問題として1)脂肪酸およびコレステロールの摂り方、2)食品群別摂取量について地域別に検討したので報告する。

対象人数	
海	男 24
浜	女 10
中	男 35
心	女 27
周	男 34
辺	女 37

対象人数	
海	男 26
浜	女 35
中	男 29
心	女 30
周	男 46
辺	女 41

P/S比および摂取コレステロール (mg)

対象		男子	女子	
P/S	小学校	海浜	0.9±0.2	0.9±0.4
		中心	0.8±0.1	0.8±0.1
		周辺	0.8±0.1	1.0±0.2
	中学校	海浜	0.9±0.2	0.9±0.2
		中心	0.8±0.2	0.8±0.3
		周辺	0.9±0.3	0.9±0.3
摂取コレステロール	小学校	海浜	319±11	275±66
		中心	335±108	273±91
		周辺	364±104	318±131
	中学校	海浜	347±127	305±106
		中心	357±137 ^{*)}	344±101 ^{*)}
		周辺	448±134 ^{*)}	435±107 ^{*)}

平均値±標準偏差
*…P<0.01

1) P/S比および摂取コレステロール (表)

P/S比は男子では小、中学生ともに1.0以下で地区別に有意差はみられない。女子では小学生において周辺地区が1.0で中心地区との間に有意差が認められるが、中学生ではみられない。

次に摂取コレステロールをみると小学生では男女ともに有意差はみられない。中学生では男女ともに周辺地区が一番多く他地区との間に有意差が認められる。

栄養摂取量では、脂肪摂取量が中心地区に最も高く、また脂肪エネルギー比では、30%を超えるものが多くて目標の25-30%を上回っている。更に動物性脂肪の摂取量についても、小・中学生男女ともに中心地区が最も多く摂っており、小学生男子では中心地区と周辺地区間で、中学生では男女ともに海浜地区が少なく、中心地区との間に有意差が認められることは総脂肪摂取量と同様である。

以上より動物性脂肪の摂り方が有意に多い中心地区の男子では、飽和脂肪酸の摂取量も多く、強いては血清総コレステロールも高いという傾向はみられるが、相間を認めるまでには至らない。

2) 食品群別摂取量の地域差 (図)

小学生男子では乳製品および緑黄色野菜において、中心地区が他地区よりも有意に摂取している。小学生女子では魚介類の摂取が海浜地区に最も多く、周辺地区との間に有意差がみられる。緑黄色野菜は中心地区の摂取が最も高い。

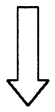
中学生男子では牛乳、肉および肉加工品、緑黄色野菜について中心地区の摂取が最も多く、魚介類は周辺地区が最も多く摂っている。中学生女子では魚介類の摂取が周辺地区に多く、肉および肉加工品、緑黄色野菜は中心地区が多く摂っている。

以上のように食品群でも地区差は認められるが、これらと血清脂質との相関をみると関連性はみられない。

現在は地区別を離れて食生活や発育、家族歴などの面も加えて総合的に検討中である。



検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用
論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



昨年度報告と同じ対象において、食品の質的問題として 1)脂肪酸およびコレステロールの
摂り方,2)食品群別摂取量について地域別に検討したので報告する。